

水道事業会計

1 事業の実績

(1) 業務概括

本年度は、前年度同様、安定的に事業を継続していくために、老朽化した配水管や浄水施設機器の更新、水道施設耐震化などを実施している。財政面では、主に家庭で使用される小口径において、使用水量に応じて徴収する従量料金は3年連続で減少したものの、給水戸数の増加により基本料金収入が増加し、店舗・病院等の大口需要家からの料金収入も増加したことにより、料金収入は微増している。

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	令和5年度	令和4年度	増 減 数	増減率 (%)
給水区域内人口 (人) A	283,093	284,143	△1,050	△0.4
計画給水人口 (人)	286,700	286,700	0	0
現在給水人口 (人) B	273,688	274,281	△593	△0.2
普及率 (%) B/A	96.7	96.5	0.2	
導送配水管延長 (m)	1,416,535	1,410,807	5,728	0.4
職員数 (人)	75	74	1	1.4
※()内は短時間勤務職員数で外数	(3)	(4)	(△1)	
総給水量 (m ³)	27,264,706	27,246,299	18,407	0.1
給水能力 (m ³ /日) C	146,790	146,790	0	0
1日平均給水量 (m ³) D	74,494	74,647	△153	△0.2
1日最大給水量 (m ³) E	80,056	86,831	△6,775	△7.8
施設利用率 (%) D/C	50.7	50.9	△0.2	
最大稼働率 (%) E/C	54.5	59.2	△4.7	
負荷率 (%) D/E	93.1	86.0	7.1	

(2) 給水人口及び普及率等の主な増減の内容

給水区域内人口及び現在給水人口は、前年度に比べともに減少している。

普及率は、給水区域内人口の減少が現在給水人口の減少を上回ったため、前年度より0.2ポイント上昇して96.7%となった。

(3) 水道施設の利用状況について

施設利用率は、施設の平均的な稼働状況を示すものである。給水能力は、前年度と変わらないが、1日平均給水量が減少したことで低下している。

最大稼働率は、1日給水量が最大のときの施設の利用率を示す指標であり、これも低下した。

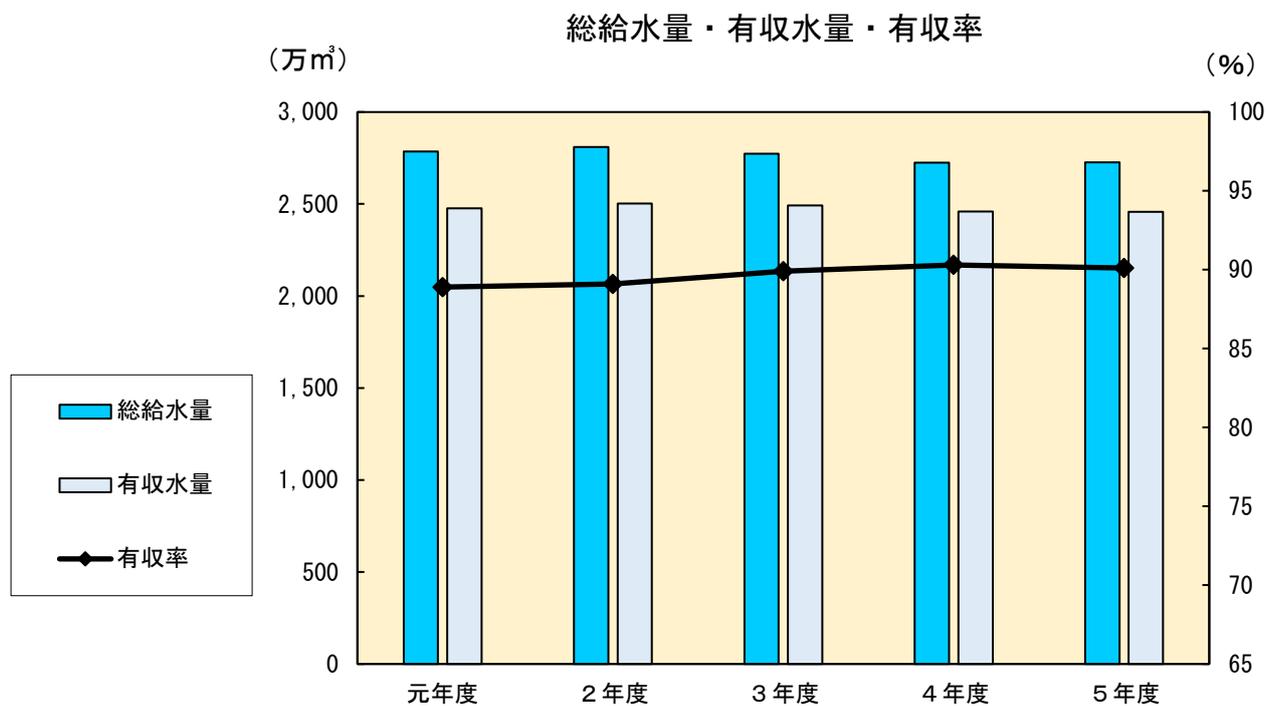
負荷率は、施設の効率を示す指標であり、1日最大給水量に対する1日平均給水量の比である。1日平均給水量の減少以上に1日最大給水量が減少した結果、7.1ポイント上昇した。

(4) 総給水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

総給水量は、前年度比 18,407 m³の増加となっている。主な要因は、捨て水などの料金徴収をしない無収水量の増加（14,821 m³）と、配水管からの漏水などの無効水量の増加（24,478 m³）である。

総給水量に対する有収水量の比率である有収率は、90.1%と前年度より低下している。

なお、総給水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



(単位: m³・%)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
総給水量 A	27,852,680	28,089,099	27,730,126	27,246,299	27,264,706	
有効 水量	有収水量 B	24,761,182	25,024,237	24,919,327	24,591,669	24,570,777
	無収水量	1,378,175	1,321,829	1,574,756	1,626,152	1,640,973
無効水量	1,713,323	1,743,033	1,236,043	1,028,478	1,052,956	
有 収 率 B/A	88.9	89.1	89.9	90.3	90.1	